

ウィリアム・チキート氏 公開レッスン

5/14 (土) 12:30 ~ 15:00 @ Aホール

学生および学内関係者は聴講自由



©Alberto PATCH

【受講生】

① 若杉 岳史 (大学院生)

ピアノ：百武 恵子 先生 (本学教員)

モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲

第4番 二長調 K. 218 第1楽章

② 大堀 はな (オーケストラ・アカデミー生)

ピアノ：大堀 さち さん

モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲

第5番 イ長調 K. 219 第1楽章

③ 日比ありさ (オーケストラ・アカデミー生)

ピアノ：百武 恵子 先生 (本学教員)

シベリウス：ヴァイオリン協奏曲 二短調

作品47 第1楽章

【ウィリアム・チキート氏 プロフィール】

コロンビアのメデジンのスラムに生まれた。彼に音楽がなければ、子供時代の多数の友人と同様に悲惨な運命の犠牲となっていただろう。11歳の時に青少年オーケストラ、レッド・デ・エスクエラス・デ・ムジカ・デ・メデジンに参加。ほどなくコロンビアの同世代の最も有望な才能として頭角を現す。14歳でアンティオキア大学に入学。ポリアナ・ヴァシレヴァ教授のもとでヴァイオリンを学び、大学のオーケストラのソリストとして演奏するかたわら、メデジンの児童青少年オーケストラのコンサートマスターも務める。2005年、国際コンクール Jovenes Solistas で優勝し、ヴァーレフィルハーモニックオーケストラとソリストとして共演。2006年、コロンビアの画家・彫刻家の巨匠フェルナンド・ポテロから奨学金を受けて、イタリアに留学し、フィエーゾレ音楽院でパヴェル・ヴェルニコフとアレクサンドル・セムチャックに師事。2008年、フィエーゾレ音楽院でヴァイオリンの教鞭をとる。フィエーゾレ音楽院と提携しているフェラーラ音楽院“ジローラモ・フレスコバルディ”を優等で卒業。様々なスタイルの音楽活動に関心を持ち、主にイタリアでのコンサートで演奏をしており、R. ムーティ、C. アバド、J. テート、G. フェロ、G. ノセダ、K. ペンデレツキ、N. パスコウスキーなどの著名な指揮者と共演。また、A. ルケシーニ、M. リッツィ、M. ブルネロなどのアーティストと演奏している。フィエーゾレ音楽院オーケストラ、ガムズ・オーケストラ、ヴィンチェンツォ・ガリレイ管弦楽団、カメラータ・フィエーゾレ、フェラーラ音楽院オーケストラ、アルキ・フィレンツェ・アンサンブル、メデジンフィルハーモニックオーケストラ、アンドレス・オロスコ=エストラーダ指揮のコロンビアユースフィルハーモニックとソリストとして共演している。サルヴァトーレ・アッカルド、マッシモ・クアルタ、B. カニーノ、G. クルターグ、M. マーティン、H. ベイエルレ、M. シュカンパ、C.C. シュスターのマスタークラスで研鑽を積む。エナオ弦楽四重奏団の第一ヴァイオリン奏者としてイタリアの最も著名なコンサートシーズンで演奏。現在はローマのサンタ・チェチーリア国立アカデミー管弦楽団に在籍している。